

岩手県総合計画審議会 第5回「ゆたかさ」検討部会発言等要旨

日時：平成25年9月25日（水）13：30～15：30

場所：岩手県庁 8階 8-E会議室

1 出席者

別紙、出席者名簿のとおり。（「ゆたかさ」検討部会委員5人）

なお、県民の方、報道関係者の傍聴はなし。

2 内容

「提言書（素案）について」の内容を事務局から説明し、各委員において意見交換を行った。

◇各委員発言

【山田座長】

ありがとうございました。

今まで2つの部会それぞれで検討してきたものを、ひとつにまとめた提言とした。力を注いで頂いた事務局の方々に感謝します。内容的にも、要望の言い方や見せ方、アプローチの仕方なども、率直に気づきを出してほしい。

【事務局】

表題にも書いたが、人口減少社会を前提とした考え方になっている。射程距離感として、遙か先のことまでつなげる施策は難しいので、向こう10年のことなのかなと思っている。10年後に減少が収まりV字に変わるの理想だが、まず落ち着き先があって、やがては上がるというイメージである。ちなみに岩手県の少子高齢化社会の進行モデルは、2025年の日本の縮図と言われているので、ある意味わが国のモデルと捉えて踏み込む必要があるだろうが、絶対に効くというカンフル剤はないので、アバウトなイメージで見据えている。

【山田座長】

何十年か後というよりは、今現在、10年20年の対応を射程距離としている。世界からも高齢化した日本は注目されているし、これからどうするか施策の方向性が出てくるだろう。

【事務局】

ポンチ絵の右、施策の方向性のところで、前回の部会で出たキャッチフレーズについての提案を受けて、事務局で案を掲げた。中身的には大きな違いはないが、こういった姿が望ましいなど、意見を頂きたい。

【山田座長】

9 ページ、11 ページを見ておいて下さい。

【藤井委員】

人口とゆたかさ、両部会の素案は共通か。

【事務局】

共通である。そもそも一本化することの是非もあるが、一旦は同じものを提示し、ご意見をいただこうと思っていた。最終的に政策提言というところまでいくと、まとまるどころに来たのかなと思う。

スケジュールとしては、11月20日に、両部会集まっていたいただいで審議会を予定している。今日明日は、審議会へ向けての中間まとめとなる。

【山田座長】

全体のイメージとしては、こちらに各部会の検討内容が入るという感じですね。重なっている部分は分ちがたいところもあるが、ご意見をいただきたい。

【藤井委員】

盛岡にいて感じるのは、人口は変わってなくても高齢化は進んでいる。私の住んでいるところや松園は、高齢者が増えてある程度峠は超えたという感じがしていて、人口のトレンドは西南開発の方に動いている。盛岡に関しては、人口減少とは別の高齢化という問題が出てきていると感じる。医療、福祉などもろもろの負担が増えていくだろう。秋田県が高齢化先進県と聞いたことがあるが、これから東京周辺の大都市近郊は人口増減に関わらず、生産年齢人口の減少が大問題だ。秋田は高齢化が定着していて、生産年齢人口が低止まりしており、そういう視点も必要だ。岩手の場合はどうか。

【事務局】

高齢化率は上昇する見込み。2 ページの下のグラフでは、65 歳以上が 27.2%になっている。30 年後には 39.7%と上昇すると思われる。生産年齢人口については、60.1%から 50.7%へ落ちる見込みである。人口減少に加え高齢化の進みもあるというご指摘があったが、素案の中では、8 ページの表題にあるように、人口減少社会という言葉の中に、3 つの要素が入っているという前提である。

【事務局】

盛岡もしばらく人口は横ばいの推移だが、他の地域は右肩下がりだ。

【山田座長】

私もひとつの要かなと思う。ひょっとすると、今事務局から指摘を頂いたように、人口減少社会とはどういうものを含めてここで考えているのかということを示していただき、いくつかの側面を合わせれば、より見えやすくなると言えるのではないかと。

【吉田委員】

施策の方向 1、2、3 とあったが、私は 3 が好きだ。高齢化していく中で、互いに支えあう観点がないと、医療体制に不安がある人には不安定だ。そこを前面に出して、「支えあう」ということが大きなキーワードになるのではと思う。医療費についてお金だけで負担していくとどうしても限界があるが、ポイント通貨制など、ボランティアで働いた分、将来サービスを受けることができるなど、お金と切り離れた医療・福祉への参加を進め、お互い支え合うシステムを作れば安心な高齢化社会を迎えられるのではないかと。

【山田座長】

キャッチフレーズと言う意味ではこれが代表的かもしれない。これを見ていくというのもひとつあると思う。

【吉田委員】

ポンチ絵を見たときに、高齢者の医療というところが少し弱い。アンケートで医療に対する不安は非常に高かったと思う。それに対する一つの答えとして、医療でお互い支えるというところかなと思った。

【山田座長】

一委員として、(3)で、若者と女性はもちろんだが、多くなりすぎるかもしれないが、高齢者はここに入ってもいいのではと感じた。

【事務局】

横軸を通したのは、特に強調したい着目点という意味。各世代が活躍できることをベースに、今の高齢者にいきいきと生きてほしいし、高齢化を意識した社会運営を営むとすれば、(1)(2)(3)のほかに(4)いきいきとした高齢者がいる社会というものが横軸となってもいいし、こだわりなく、軸はどんどん増やしていいと思う。

【千田委員】

人口とゆたかさ、両部会を一緒にしたときに、人口が減少して、懸念事項が 3 つあるという整理である。人口が減少すると本当にだめなのだろうか。懸念事項がたくさんあるの

は明らかだが、人口減少社会を楽しむ、その中で生まれるゆたかさも、実はあるのでは？と思う。懸念事項は全部納得できるし、大変な中をどうするかという方向性は合っていると思うが、逆の意味で、人口減少社会を楽しんで、ピンチをチャンスと捉えて、人口減少社会の中で何かゆたかさが生まれることも考えられるのではないかと。

せっかく一緒にやるのであれば、そういう視点で話を持っていくのもおもしろいと思う。そういう意味では吉田委員の言った案3には少しそういうキーワードも入っている。人口減少社会において、経済的・物質的な懸念はあると思うが、例えば自然・風土・伝統は失われず育んでいけることもある。あえて都会から岩手の良さを求めてくる人も入る。それは何を求めてきているのか。決して悪いところだけではないのではないかと思う。

【山田座長】

その根本的なところはどこまで出せるか、どう出したいかか一つの肝だと思う。今までは減少することについての問題が強調されることが多かったと思うが、そこをひっくり返していけるかどうか。8ページの懸念事項と影響では、ひとつ踏み込んで書いていただいているかと思う。そこに千田委員の言われたような、別な視点からの岩手のゆたかさもあるのではということを経絡させて出していくということもあると思う。

【事務局】

事務局でも、人口減少社会は不可避だが、光も求めたいと思っていた。人口減少社会が進むと正も負もあるという分け方もあってもいいと思いつつ、今回は懸念事項からまとめた。

【藤井委員】

人が減れば、一人当たりの活躍度合いは増す。高齢化しても三世代が同居していれば、三世代の強みというものもある。秋田の子どもの学力が高いのは、三世代同居が多いことにより、早寝早起きや生活のサイクルが他に比べて早くしっかりしているということがあられるらしい。子どもが減ったら切磋琢磨しなくなるということがどこかで言われたが、僻地の学生は非常に協調性があり、少人数できめ細やかにやっているところもある。千田委員のおっしゃったとおり、少人数=ネガティブなことだけではない。

【事務局】

人口減少におけるいい影響と悪影響というように、カテゴリを全部わけて、それぞれ成立するところからつめてもよい。干渉しあうとうまくいかないかもしれない。切磋琢磨の話は、大規模校、小規模校の比較議論で出たものと思う。そこは一長一短だと思う。人数にあわせて方法の使い方があろうと思う。

【藤井委員】

盛岡で、身近なところで思うのは、三世代同居はまずない。お年寄りばかりだったり、一人しかおらず、またケアハウスなどに行ってもぬけの殻という場合もある。子どもが東京などに行っていれば、亡くなったときの資産流出も問題だ。一万世帯で資産が 1000 万とすれば、遺産は 1000 億円になる。跡継ぎがいなければ個人資産が関東や東京に行ってしまうのも問題である。

【谷藤委員】

金融資産はなくなってしまう。

【事務局】

釜石が過疎化していて、年金世代の高齢者の跡継ぎが東京などにいて、仕送りなどにより釜石から資産が流出していると言われている。

【谷藤委員】

今は復興関連で資金の流れが異常だ。どこからどこまでがどういう金かよくわからない。宮城県の七十七銀行などは、やたら預金が増えて困っているという。岩手銀行も似たり寄ったりだが、預金が増えても運用先がないため、事業が動き出せば出て行くだろうが、そういう状況にまだなっていない。専門的な話だが、預金として預かると預金保険料を払わないといけない。金利は安いけど保険料の負担も大きく、運用ができないから保険料をどう捻出するかという話が出ている。

人口が減るのは仕方がないが、減り方が激しすぎると対応できないので、緩やかにしたいと思う。国立社会保障・人口問題研究所の今回の人口推計については、推計以上に人口が減ると思う。働き盛りの人たち＝子どもを産み育てる人たち、とくに世帯をすでに形成している人が移動すると、子どもも一挙にいなくなる。これはどれぐらい働き口があるかが重要。そこの問題意識をもっとにじませてほしい。多様性、賃金など、雇用の質をもっと考える必要がある。

今回の分析で一人当たりの県民所得の式を出していただいて、ゆたかさと人口の関連付けをするための式ということで、労働生産性と就業率をできる範囲で時系列で出していきたい。一人当たりの県民所得が国に対して約 8 割ちょっと、おそらく長い間それぐらいの割合できている。しかし（財）岩手経済研究所で見ている労働生産性と、ここでいう労働生産性とは違うようだ。（財）岩手経済研究所でみている労働生産性で言うと、全国対比が平成 16 年くらいまでは 7 割後半～8 割までできている。ところが平成 21 年だけを見ると 70%まで下がっている。見ている数字が違うところもあるが、もしそうだとすると就業率が上がって調整されているかもしれない。割に合わない仕事でも稼ぎに出ている状況が増えているかもしれない。そうなれば、まともに賃金をもらえる仕事がなくなってきてい

るという数字的データがでていいるかもしれない。よりいっそう良い賃金を求めて人が流出していくかもしれないので、傾向が出ているかどうかの分析をベースとして論を展開しても良い。

【千田委員】

リーマンショックの翌年から崩れ始めたという感じはする。

【谷藤委員】

同じ式で計算しているわけではないので、データの取り方の違いで、私の言っているような状況ではないという姿が現れるかもしれない。何ともいえないが、受給ベース的な2つの項目について国と県と合わせて出していただいて、何かここ4、5年、リーマンショック以降特徴的なことがないかどうか見てみたい。ここ10年のことを否定する動きになっているかもしれない。

【事務局】

日本全国的にも、労働対価が払われていないのではないかとこの傾向を感じる。グローバル化の中で、わが県もそうだが、国も二極化してしまっていて、ものすごく高い生産性を出す分野の人たちと、我慢して日々暮らしていく人たちに分かれる様子が顕在化してくると思う。そこが逆に書きにくいところでもある。もう一つの価値があって、だから岩手を、というシナリオにつながれば良いと感じている。

出口になる最先端技術の産業なのか、全く今までにない新しい見方でサービスに価値を見出して提供するのか、どこまで提言していけるかというところを相談させていただきたい。11月の総計審以降は、材料を探しながら提言の中身を議論しなくてはいけない。

解決策はまだわからないが、危機感や問題意識をにじませることはしなければいけない。

【山田座長】

雇用の質と労働状況の変異ですね。

【谷藤委員】

昔は仕事のレベルが上がれば給料が上がり、社会的な地位もあがった。しかし今は非正規労働に代表されるように、いつまでたってもステップアップしていけない環境。その変化の兆候はリーマンショック以降に出てきた。ある企業支援コーディネーターが、以前は不況でリストラされたらベンチャー企業を起こして一旗あげようという人がいたが、今回はそういう話がないという。今回はおそらくリストラされた人たちが、一旗あげるための資金もなければノウハウもないのだと思う。今までは普通に会社勤めをしていれば、10年もすれば何らかのノウハウは持てるし、それなりの貯蓄もできた。今は10年20年と勤め

ても、その日の生活で精一杯な状況から抜け出られない。雇用の質が低下している。

【藤井委員】

強みだった終身雇用と年功序列が崩れた。もはや専業主婦は絶滅危惧種で、そういう時代は終わった。仕事の中身は二極化し、キャリアアップできるものとルーティン化したものを生涯続けるかになった。

15 ページに共働きの割合が全国でも高いとあるが、岩手は高いのか。

【事務局】

全国レベルから見ると高いが、北陸 3 県などに比べると高いとは言えない。

【藤井委員】

みんな働かないとなかなかやりくりできないことを反映しているのか、リーマンショック前後と比べてどうなのか。加えて震災、という厳しい中で子育てというのはどうなのか。

【千田委員】

企業の立場から言うと、リーマンショックのあとに経済が回復してきた時に、30~40 代前半で面接に来る方で、一つの会社で 10 年組み立てをやっていたという。じゃあ他に何かできるかという、組み立てしかできない。技術力が身につけていないため、ほかの仕事に転換できない。企業誘致を進めるというのは大きい雇用を生むので大事だと思うが、今の谷藤委員などの意見とは相反するものになってしまう。

【谷藤委員】

私としてはこれはこれで項目としてあがっていてもいいのではないかという考え。昔のように、一つの工場で何百人も雇用をするというのは難しい。そういう工場はもはや日本には立地しない。逆にその規模の工場は、ロボットなどを使い、人の手をかけない。企業誘致を進めるのはそれはそれで結構だが、どういう仕事があるのかまで考えなくてはいけない。伝統工芸を志す若者を応援するなど、自己実現の手伝いをする地域など、そういうイメージでやっていくほうがいいのではないか。しかしそれには決め細やかな作業がたくさん必要なので、簡単ではない。先進国のものづくりは 3D プリンタに限らず、一人一人の技が生きる、大量生産でない方向に行っている。結果的に使えるお金は減るかもしれないが、満足感は十分ある、岩手で暮らすのは東京よりお金がかからない、などトータルに考えるといいと思う。

【藤井委員】

企業誘致もくせものというところもあり、円高になると、誘致した企業はすぐに去って

いくので根付かないという問題がある。誘致というよりはそこに企業を育てるという発想がないと、難しい。

【事務局】

雇用や地域の経済活動など、目先の企業誘致のメリットもある。岩手県は、誘致した企業が研究・開発型にどんどん進化していき、単に生産工場ではない。ベーシックな地方の経済の柱立ての一つにはあると思う。産学官が連携して根付いた産業、という一つの定着形だと思っている。雇用自体はご指摘の通り減っているのに、何百人もの労働者をかかえる企業というのは難しい。しかし直接的なカンフル剤には違いないかと思う。ベンチャーを進めろというだけではなく、新分野開拓・新技術開発のような、いろいろな発展系ができるような産業振興プログラムがこれからも今までも必要だと思っている。

【谷藤委員】

事務局の言われることは本当にその通りだと思うので。そういう前提で、例えば本文を見ると企業誘致を進めると言う所で、冒頭から「雇用の場を確保するためには、」と書きだしている。こういうスタンスだとちょっと違うかなと。実際地域のものづくり企業、地場企業も含めて既存の企業に対して刺激を与えられるような最先端の企業に来て欲しいというところもあるし、そのこと自体否定するものではないが、雇用の場を確保するためとなると、今までの流れとは違うのかなと。

【事務局】

これを即雇用と言うのは何か違うかなというのはまさにその通りです。

【谷藤委員】

企業というのは要するにカンパニーだけではなく、起業する人にも来てもらわないと。岩手は面白そうだからと来てくれるようになればそれはそれでプラスになる。

【事務局】

10年ちょっと前はそういう人もたくさんいましたが。

【谷藤委員】

昔は九州から休日に花巻の起業家支援センターに来た人がいるというような話も聞きましたけれども。

【山田座長】

順番を付けるのは難しいと思うのですが、ただこの検討部会、了ということになる可能

性が高いかもしれませんが、その時にどの辺りを重視したいかという、ある程度の色というのは出しても良いのではないかと感じる。

御指摘の通りウで企業誘致を進めるという、確かにここだけを見ると今までと同じかなと見られる可能性はあると思う。例えば 1 つ、今おっしゃっていただいた目先の基盤的な所と、ここは是非伸ばしてほしい、伸ばしていきたいという要素とを分けるくらいはどうかかなと思って伺っていた。

パッと見ると 13 ページ 14 ページの方でも非常に目配りを利かせてお書きになっているが、どの辺りまでをこの提言の中で強調してより訴えたいかというところは出しても良いかなという気はする。人口部会のご議論もあるかと思うが、この部会ではどう考えるか。やはり生活の根本のところなので非常に重要な所かと思う。

【吉田委員】

先日県南の誘致企業の工場の方とお会いする機会があった。県南は企業誘致の歴史も長く、トヨタの生産ラインも入ってきていますが、高付加価値の部分は別の所で作って、こちらで組み立てるだけのラインも多いのですけども。周辺の企業には岩手県で部品を卸せるようになりたいという大きな夢があるので、ある程度企業誘致というのは残してもらいたいというのはある。組み立てだけの使い捨ての雇用制度というのはダメで、マイスター制度のようなしっかり技術者を育てる工場に来ていただきたいなど。

【山田座長】

企業誘致というのは 1 つファクターとしてあるけれどもそこからどうするか。岩手という地域をより強くしていくかということとの関係で提示できれば皆さんの意図は伝わりやすくなるかなという感じがする。

【吉田委員】

稼ぎの場としてもブランド化してもらったらと思う。

【山田座長】

そうですね。先ほどお話にありました伝統産業というところも含めて、まさに最先端の、岩手に来れば出来るという仕組みづくりでしょうか。

【藤井委員】

岩手ならではの産学官で連携しながらリーディングカンパニーと言うが、そういう個性があっても良いと思う。具体例でコールセンターとあるが、成長性という面で、そこで何か蓄積されて、技術と経験が積み重なっていくという感じではない。

【谷藤委員】

リフレッシュオフィスというのはどういうものか。

【吉田委員】

最近テレビでも紹介されており、IT企業は深夜残業が多くて体を壊す方も多いようだが、田舎に通信回線を通して仕事をすると。ゆっくりしながらリフレッシュしながらというオフィス。古民家といった所を事務所にする。徳島で進んでいて、岩手では遠野などがネームバリューがある。今それも人口と絡めて考えていて、必ずしもここで生活するだけではなくて一定期間、1年だけとか何か月とか決めて、ニ地域居住であるとかそういったことも考えられると思うので、推進をぜひお願いしたいと思う。

【藤井委員】

それでまた東京に戻ると言う形か。

【吉田委員】

はい。週末だけ移動したりするという人もいる。

【事務局】

昔はエレクトリックコテージといい、リゾートオフィスといい色々なものがあった。

【吉田委員】

今までの別荘では少し高すぎる。人口が減って、今後地方部の5軒に1軒くらいになると言われている空き家を利用してリフレッシュオフィスにするということができてきている。

【事務局】

そのまま行って都合のいい環境で都合のいい間やるという。それでまた戻って本職ということ。交流型のいい仕事の仕方ですよ。

【山田座長】

それは他と結びつけてリフレッシュオフィスの誘致をすることによって、古民家ですとか空いたところの利用が出来るというところに皆さんが繋げて想像していただけると嬉しい。空き家対策の所でもひよっとすると入れられるかなど。

【事務局】

街中の過疎の解決策として良いと思う。働いて一時期暮らしてくれる人がコミュニティ

一の一員として溶け込んでもらう仕組みを作る。それだけを考えても面白い。新しいコミュニティ作り。都市と地方を人が常に行き来して、そうすると活性化すると思う。そういう地域が良いというのはあると思う。松園も空き家が増えたと言うことで、空き家対策で市の方々が色々考えたと思うが、オフィス系まではいかなくても、住んでみませんかというような誘い方の方法はあると思う。

【事務局】

18 ページのウに、「空き家」対策だとか、過疎地での週末移住なども盛り込んでいます。

【山田座長】

たくさんの方が行き来することのできる仕組み。今の話を受け継ぐとそういう感じでも。

【吉田委員】

空き家に一か月いてもらったら地域としてはすごい経済効果だと思う。

【山田座長】

それによる新たな豊かさというのが出てくると言うのもある。

【谷藤委員】

地元の人だけじゃなくて他の地域の方にも岩手の豊かさ感じてもらうという面が出てくると思う。非常に面白いお話だと思う。

【事務局】

大体一人で来ると思うが、この空き家なり古民家が良いねとなると、家族がここに行ったり来たりしてくれる、これがミソかと。

【山田座長】

リピーターから居住者へということですね。関連するところ、あるいは「はじめに」のところ、それぞれの施策の中身の方もありますが、時間の許す限り。今日は御意見を出していただいて、今日御欠席の方にも別途御意見を頂戴する形で。

【事務局】

今日お示した資料はまさにたたき台ですので、しっかり叩いていただいと思っておりますので。今日も限られた時間ですから、気づいたらいつでもメールなりで御指摘していただきたいと思う。各委員さんにも配った上で今日の議論まとめてまた見ていただくので。

【藤井委員】

表現ですが、施策の方向性で真ん中 2 番ですね。この中のアイウのアが「日本一子育てがしやすい岩手」イが「健康寿命日本一」、日本一というのは結構強く出ているなど。

【事務局】

本当は全部〇〇の日本一岩手のような形にしたいと思った。一つの例です。

【吉田委員】

雇用の質という点で逆の見方をすると、労働生産性について、所得に対して労働者数で割っているわけだが、労働時間が短い可能性があっているのかなと思う。1日4時間だけ働く正社員。先ほどのボランティア通貨のような話でボランティアで就労して将来ポイントを使う。働くと言うことの観念をもっと広めて、数値には表れてこないのだが、そういったことで雇用の多様性を増やすことで高齢者や女性に思いやりのある医療制度、名古屋にある医療生活協同組合のように出資者への配当がないですけれども、ほとんど女性が出資して女性がボランティアで運営していくなど、女性の余った時間を使って地域の価値を高めることが重要になるのかと。柔軟で公平性の高い雇用制度のあたりも膨らませて書いてもらえば良いかなと思う。ただし解釈の仕方を間違えると雇用の質が悪化すると思う。このあたりをどのようにブレーキかけていくかにあると思う。

【山田座長】

今おっしゃった(1)のイの多様な働き方を可能にするというところで、働くこと自体の意味と言いますか、今までの何時から何時までというのを取っ払った、あるいは広げて多様性と言うのもちょっと違う角度で見えてみて、労働時間などについても柔軟にすることによってより広げていく。

【吉田委員】

岩手らしい働き方と言っていいかもしれないですけど、柔軟な就業形態。

【藤井委員】

その辺りというのは恐らく、次の「子育てのしやすさ」の項目のところに繋がっていくのではないかと。

【山田座長】

関連するか分かりませんが、岩手だからこそというところの、それこそ「ゆたかさ」、岩手の資源というのをもっと入れても良いのかなと言う気がする。特にこれは「はじめに」

のところになるが、「ゆたかさ」という所を考えていく際に、岩手の豊かさについてはこうした点も言えるのではないかと、という具合に言及してもよいのでは。自然資源といったところも含めてというのも一回踏まえた上で懸念事項もあってよいのだが、こういった可能性も出て来るのではないかと。豊かさに関する説明も 1 つあってもよろしいのではないかと思う。

【事務局】

懸案の素案に載っている豊かさ定義については 10 ページの一番最後の所には示しましたが、はじめの方に持ってきて、この提言の性格付けとして良いのではないかということでしょうか。

【山田座長】

そうですね。なぜ「人口」と「ゆたかさ」という 2 部会を置いたかという背景の説明にもなろうかと思う。だからこそ今ゆたかさを考える、というスタンスか。

【事務局】

先ほど議論のなかで人口減少社会はこういうものだということを「はじめに」の中に書き込んだ方がよいのではないかという話がありましたが、一応 1 ページ目の 3 段落目に書いてはございましたけれども、もう少しハッキリ書いた方がよいということですね。

【事務局】

項目立てを、「はじめに」というよりは、前提条件といいますか定義ものといいますか、論点の整理についてはそういったものを意識した書き方に変えられると思う。

【山田座長】

読んでいただく方に。私たちは検討の経緯も存じ上げておりますので。

【事務局】

あわせて、時々復興との関係の扱いをこれの中で整理した方がよいかと思う。

【山田座長】

私もそれは感じておりました。

【藤井委員】

データの的にはなかなか出てこないですね。震災後の人口減少の詳しいものが。

【山田座長】

私自身いつも部会で今ゆたかさを問うということはどういうふうに見えるかと考えておったので、そこをどういうふうに書いていただくかですけども。要の一つかなと思う。あとどうでしょうか。ゆっくり見ながら持ち帰っていただいて後日と言うことあるかと思うが。ちなみに案1案2案3という所で近そうなもの何かないか。(今までのお話の中では)案3と言うのがかなり近いのかなと。

【谷藤委員】

3つから選ぶということであれば、案3が良いという感じがする。案1の「わくわくする」と言う表現が出てくるのは違和感がある気がする。

【山田座長】

一委員としては案2の「～だから」というのに惹かれるところがありまして。だから岩手で暮らしたいとか、それでも岩手で暮らしたい、寒いけど暮らしたいといったフレーズもあるかなと思って拝見していた。

【谷藤委員】

むしろそういうキャッチフレーズ的なものであれば表紙に出した方が良いのでは。そこだけ抜き出すよりは。文章の中に出てくると少し「いずい」。

【山田座長】

統一的にこれが良いかなというのがありましたら、インパクトの点でもポンと出したい所ではあるかと思う。

【藤井委員】

私も否定的な、少し引かかる部分が「わくわくする」だ。主観に訴えるということがどうかと言う感じである。案3のお互いをまず「認め合い支え合う」というのが前に出てくのがいい。あとでも「一人ひとりが持てる力を十分に発揮し」とあるが「認め合い支え合う」というのが先に出てくるのは良いかなと思う。これだとじっくり腑に落ちる。

【山田座長】

ここもご苦労された所だと思うけれども。

【事務局】

「持続可能な自立した」というよく分からない言葉になっているので整理しなければならぬことがたくさんあるのですけど、そここのところを整理しながら磨いていきたいと思う。

方向性として了解した。

【山田座長】

他の点でも、どういったところからでも。いかがでしょうか。

【事務局】

先ほど人口の関係で盛岡市の人口の話もございましたので事務局の方から御説明させていただきます。岩手県の人口が2010年～2040年までの30年間で約3割減少する見込みですが、盛岡市に関して言いますと、2割減の見込みとなっておりますが、65歳以上の人口に関して見ますと、岩手県全体がこの30年間で3%人口が増える見込みに対して、盛岡市は38%増える見込みです。2010年を100にして2040年約138.6の指数なので。

【事務局】

それだけ団塊の世代の都市生活者がそのまま移行するというということ。

【吉田委員】

高齢化だけの数字見るととても脅威ですけど、実際元気ですよ。8割の元気な高齢者たちを活用して互助で互いの支援すると言う、そういった安心感を醸成する取り組みを進めていければと思う。

【谷藤委員】

定年とか関係ない話ですけども。厚生労働省でそのうち埼玉県辺りで老人が病院で死ぬなくなるという話を数年前からしていますよね。岩手県辺りだとどうなのかなと。特にそれが話題になる心配はないか。

【谷藤委員】

結局、団塊の世代を中心として皆働き口を求めて学校出たら首都圏に行っていたわけですね。そういった人たちがこれから一気に地方都市に戻ってくる。今とってもお元気ですけど、本当にそういった時期になった時にそれを前提とした病院施設を作られていないから大変ですよという話になるのですけども。

【事務局】

盛岡もいつかは現実化しそうだ。

【谷藤委員】

ちょっと前は団塊の世代と言うのはお金もあって年金生活で優雅な人たちだから私たち

の地域に、地方に呼ぼうという話が5、6年前はありましたよね。むしろこれからそういった人たちが、是非それぞれの地域に留まっていたきたいという話になっていますね。社会動態の話をする時は、働き手がどんどん来てくれる分にはウェルカムだが、そうでもない方々についてどう考えるかというのは一つ出てくると思うのだが。逆に余裕があるなら大いに持参金を持ってきていただくという話も大いにありえると思う。

【事務局】

まさにそれを狙って色んな事を考えてきて、今各自治体頑張っているのですが。やはり心配することがそこで、思い切って踏み込めない。

【谷藤委員】

最近そういう話しが出ないのはその辺があるからですね。

【事務局】

看取りも含めて、高齢家族世帯の問題が解決しないですから。かたや介護に、かたや病院にも入れず。それこそ悲劇的な生活に転落するというか変わってしまうというか。そこは本当に危機感がある。

【山田座長】

そう考えると高齢化というのは一つの軸になりそうだ。違う所で気になった点としまして4ページの一番上の所で、自然減の状況ですが、一番上の所で出生児数が減少している主な原因の所で生産年齢人口の減少と出生率の低下ですと、「主な」原因というより、原因の一つという所かなと思うがいかがか。出生児が減っているのにはもろもろの要因が関わってくると思うので。それと絡めて申しますと、ここで「日本一子育てしやすい岩手」と言うことでうたいたいところであるので、こういった所が今難しいだとか、岩手の状況・地域の状況というの、あるいはこういう方向もあるのではないかということの説明に入れていただいた方が繋がりやすいかなという印象を持っていた。

【事務局】

4ページのグラフの内容と12ページの「日本一子育てしやすい岩手」のところの繋がりということでしょうか。

【山田座長】

これをやっていると全部になってしまうので、今グラフや数字としてはこういう状況で、且つ社会的にはこういう状況が、それこそ岩手でどうかというよりは、例えばなかなか子供をあずけにくくて子育てがしにくい環境というのがある、など。そういった所を一つ絡

ませていただくと、より一層育てやすくするためにはこういう方法がありうるのではないかという提言との結び付きが見えやすくなるのではないかという気がしました。それこそ環境と言った方がよろしいでしょうか。

【山田座長】

「出生児数が減少している主な原因」について、一つの意見としてだが、主な原因はというよりは、減少している原因の一つはということでもよろしいのではないかなということでした。色んな社会的状況というのをくくってこういう状況になっているのかなと思う。

【事務局】

単純に率直に書いた。ですから表現の仕方としては色々と方法があると思う。

【谷藤委員】

いわゆる要因分解という意味ではこの2つということ。ただ、何故出生率が低下しているか、女性の人口が減少しているか、本当の原因は別にある。

【藤井委員】

出生率の低下も生みにくさがあるのかなとか、経済性だけじゃないですよ。沖縄の出生率は高い。平均所得が低い中で特異的に高いので何かあるのかなと。

【谷藤委員】

先進国ではフランスも高いということだ。

【藤井委員】

婚姻形態に関わらずサポートが充実しているということ。

【山田座長】

なるほど。先ほどの「主な原因」は数字としてはということですね。

【藤井委員】

根本の原因はまた別にあるということ。

【事務局】

根本原因としては確定しては書けないので、さきほど山田座長がおっしゃられたような子育てしにくい状況にあると言うのはどこかに書き込んだうえで繋げていくようにしたいと思う。

【事務局】

あまりにも詰まっているので。実はもう少しやわらかい表現も良いかなと。単語として表現を少し考えたいと思う。

【谷藤委員】

「再生産年齢人口」という言い方だが、人口統計ではこういう言い方をするが、私も自分でレポート書くときは、これはいい言い方ではないということで、違う言い回しをしている。

【事務局】

表現も含めて、吟味しなければならないので、御指摘いただければと思う。

【山田座長】

私も色々見ましたがどうしようかなと思っていた。

【谷藤委員】

学術文献なら問題ないのですが、県民の方が見ることを意識するとどうかなと思う。

【事務局】

県民の方に見ていただくということが念頭にある。主な原因という決め打ち型でもなく、もっと背景もあるので表現は工夫しなければならないと思う。

【事務局】

(県庁としてのユニークな取組みとして) 漫画名刺というのを県でもやってみたことがあって、県内在住のそのだつくしさんという方に書いてもらって似顔絵を名刺にという取組をしたこともかつてはあった。そういうのをまた今の状況に合わせてやってみるのも面白いかもしれない。

【事務局】

わんこきょうだいの名刺もある。

【藤井委員】

黄金の国いわてでしたっけ、金色の名刺もありますよね。

【藤井委員】

県民性として岩手の方は真面目だなと思う。関西の方とは違うという印象がある。

【山田座長】

長時間にわたってありがとうございます。時間が近づいております。色々御意見おありだと思つたのでまた後で御説明いただきたいと思う。今日のところの意見交換としてはここまでとさせていただきます。どうもありがとうございました。提言書、素案につきましては今日いただいた御意見を基に今後修正していただくということでお願いします。その上で11月の審議会に御報告をということだと思つた。そうしますと次第の4番その他だが、皆様御意見御質問等はいかがか。そうしましたら長時間ありがとうございます。以上で議題の方終了させていただきます。進行は事務局にお返す。

【事務局】

長時間にわたりお疲れ様でした。本日の部会の内容につきましてはこちらの方で取りまとめまして皆様の方にお送りさせていただきたいと思う。素案の見直しにつきましては、明日「人口」検討部会がございますので、そちらの御意見等も踏まえ修正しまして、次回11月20日総計審本体の方に皆さんお集まりの所で御意見を頂戴したいと思う。資料要求のお話もあったので、それについてはこちらの方で作成しまして後ほど送付させていただきたいと思う。以上でございますけれども、皆さんの方から御質問等ございますでしょうか。

最後に皆さんのお手元に資料が配布されているかと思うが、10月31日の木曜日に13:15～隣の公会堂の大ホールでシンポジウムを開催したいと思っています。藻谷浩介さん、デフレの正体ですとか最近では『里山資本主義』を書かれていて大変マスコミでも引っ張りだこの有名人でございます。その方に来ていただきまして人口減少社会における「ゆたかさ」を考えるシンポジウムを開催いたします。山田先生と谷藤先生にもご参加いただいて意見交換をしていただくこととなっておりますので是非皆様にも御出席いただきたいと思つた。